

珍說豹之卷

後篇
中

^ 13

2940

5

9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9

門へ 13
2940
巻 5

栗文

珠説船文巻後編中

鼻山人著

栗文の事蹟ある生記の二つ
藤尻大町大さうらの父頼母がさう
畠として
の田舎ある丸畑村へ移し
母をままびく
も今
世の人の嘲りを擧げ
おのゝ家
の親の
成りゆきしとるのを分ての
斗ひふさす
の
たうら
のい
たうら
のい
たうら
のい

昭和九年
七月九日
購求

まごの張候人の人等まんとりつても雅あつと
る合す係る噪動あれが乳母の真まも目
夜を分す庄屋方(活切)世居安穩あら
されがたうらもユハ大妻あるあ(奉合)て達と
ふこと押の(ど)も今(又)内(度)もきつは候もあけ
且(一)日(一)と面(台)らぬ日(を)るうらる乳母(入)ま
た(う)が初(雅)う(押)れが(ひ)は(お)ま(と)く(育)て
上(り)たる(和)子(も)れ(が)何(の)ま(ま)も(も)あ(く)ま(ま)り(候)

まり(押)ま(さ)ぬ(の)お(押)び(ぐ)ら(ま)ま(一)ゆ(ふ)大(と)ぬ
の(由)立(後)は(空)とも(む)り(ま)ま(一)ま(ま)ら(ま)せ(ん)を(ん)し(ま)
粹(ち)お(和)母(さ)ぬ(令)ま(あ)り(厭)務(も)楽(が)る(母)の
為(家)の(た)り(替)し(あ)つ(と)の(カ)ウ(せ)ひ(バ)ま(ア)あ(れ)が
世(居)の(人)し(ま)次(さ)ぬ(と)極(由)り(と)も(ま)ぬ(ま)る
折(ち)ま(う)方(當)分(の)ま(ち)替(ち)が(ひ)め(と)で(せ)替(して
く(ま)ら(と)押(り)ま(あ)り(と)お(ん)推(の)よ(く)ま(る)の(ト)押(の)ひ
ま(し)て(ま)り(初)も(お)初(め)ら(ま)ら(ま)ら(ま)せ(ん)が(候)

る(巻)一(後)編(中)

三

あり 彼等も一あまのにおまを結て母りまゝ
 由 登之のさありのちあふのゆをむさくろあとの
 由 遠思抱がされはまとのる由幸抱あされませとれ
 あ付てもあやあを種まとの發動くさしひ
 いかたはずとのまめやあまの由ぞんぞん入らせ
 られませまうやしかさひ井筒やのおらじやう
 由 契情くろるり起り近々近村ありさめり
 得はらまざうませんはと村由安穩あありまゝ

ならおまがすあがら初〜がお危云波〜とて連
 中上々ますまがぶおれままでいれたとのさぬのおま体め
 お嬢あがら由幸抱抱がすが由孝次とカラス
 ののでおまごうますトちんぶんはく孫羊雲々の
 知えん夕影の予瓢汁の塩うらく田舎料理
 とろつふくるある付ちま〜んおのれが形郵ト定め
 たる由ま〜の山をぬぬふ島種りはく孫んは
 て着四床子ぐるり又ま〜るまぬぐるりをおのり

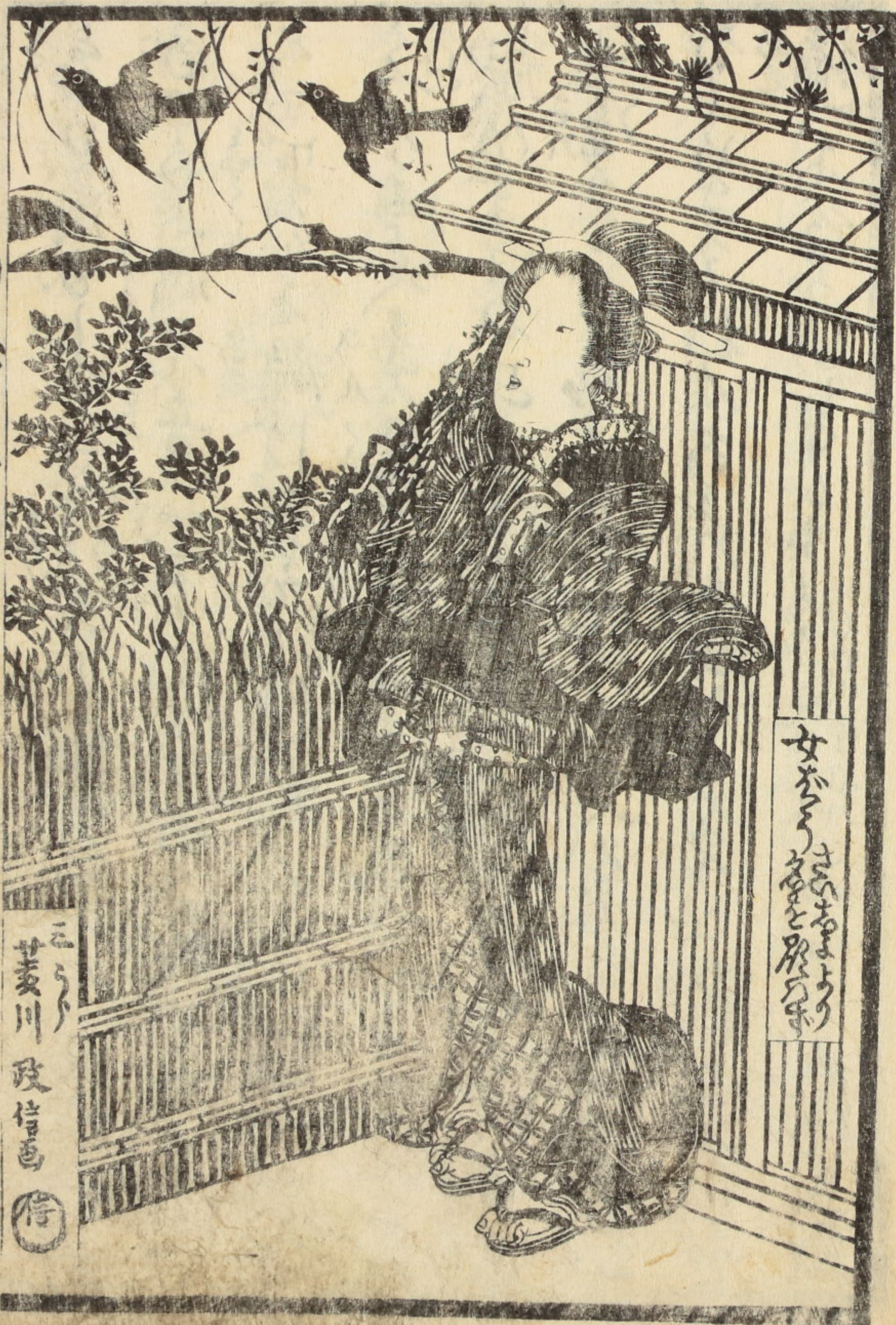
つ 続けあへくひて病るるゑへ 忽然してきたる
が 母も入るれは ちとらん ちとらん ちとらん ちとらん
着 四季が方よりの恨みの候へる ちとらん ちとらん
とく 心は 恨みの候へる ちとらん ちとらん
立 宿を 宿もつる方 候へる ちとらん ちとらん
さ びしもの 一旦その ちとらん ちとらん
も ありし ちとらん ちとらん
し 死らぬ 目を やるん ちとらん ちとらん

ちとらん ちとらん ちとらん ちとらん
あつた ちとらん ちとらん ちとらん
絶て ちとらん ちとらん ちとらん
あつた ちとらん ちとらん ちとらん
涙を ちとらん ちとらん ちとらん
あつた ちとらん ちとらん ちとらん
あつた ちとらん ちとらん ちとらん

白雲の巻

後御うのつとて^{ちり}至理なるが^{こがむすめ}吾娘の可^{かあひ}き^をを
 めつとて^え是を^{さう}お^{さう}あ^{さう}し^{さう}まる^{さう}時^{さう}に^{さう}年^{さう}う^{さう}思^{さう}志^{さう}の^{さう}別^{さう}
 ある^{さう}もの^{さう}は^{さう}某^{さう}一^{さう}掌^{さう}張^{さう}の^{さう}国^{さう}を^{さう}弱^{さう}ふ^{さう}迫^{さう}り^{さう}る^{さう}あ^{さう}ら
 ざる^{さう}極^{さう}を^{さう}受^{さう}け^{さう}る^{さう}恐^{さう}る^{さう}不^{さう}速^{さう}入^{さう}ぬ^{さう}る^{さう}大^{さう}罪^{さう}ふ^{さう}て
 親^{さう}母^{さう}さ^{さう}ぬ^{さう}の^{さう}も^{さう}ま^{さう}い^{さう}つ^{さう}を^{さう}う^{さう}ろ^{さう}面^{さう}目^{さう}を^{さう}あ^{さう}く^{さう}忍^{さう}れ^{さう}た^{さう}が
 を^{さう}兒^{さう}の^{さう}仕^{さう}合^{さう}せ^{さう}る^{さう}あ^{さう}り^{さう}是^{さう}を^{さう}等^{さう}閑^{さう}ふ^{さう}思^{さう}が^{さう}て^{さう}人^{さう}の^{さう}異^{さう}
 言^{さう}ふ^{さう}外^{さう}且^{さう}非^{さう}明^{さう}の^{さう}由^{さう}符^{さう}を^{さう}世^{さう}承^{さう}ら^{さう}ん^{さう}の^{さう}中^{さう}を^{さう}思^{さう}ふ
 さ^{さう}ふ^{さう}世^{さう}も^{さう}が^{さう}ず^{さう}あ^{さう}ら^{さう}う^{さう}一^{さう}封^{さう}の^{さう}由^{さう}を^{さう}親^{さう}母^{さう}さ^{さう}ぬ^{さう}あ^{さう}く^{さう}然^{さう}と^{さう}

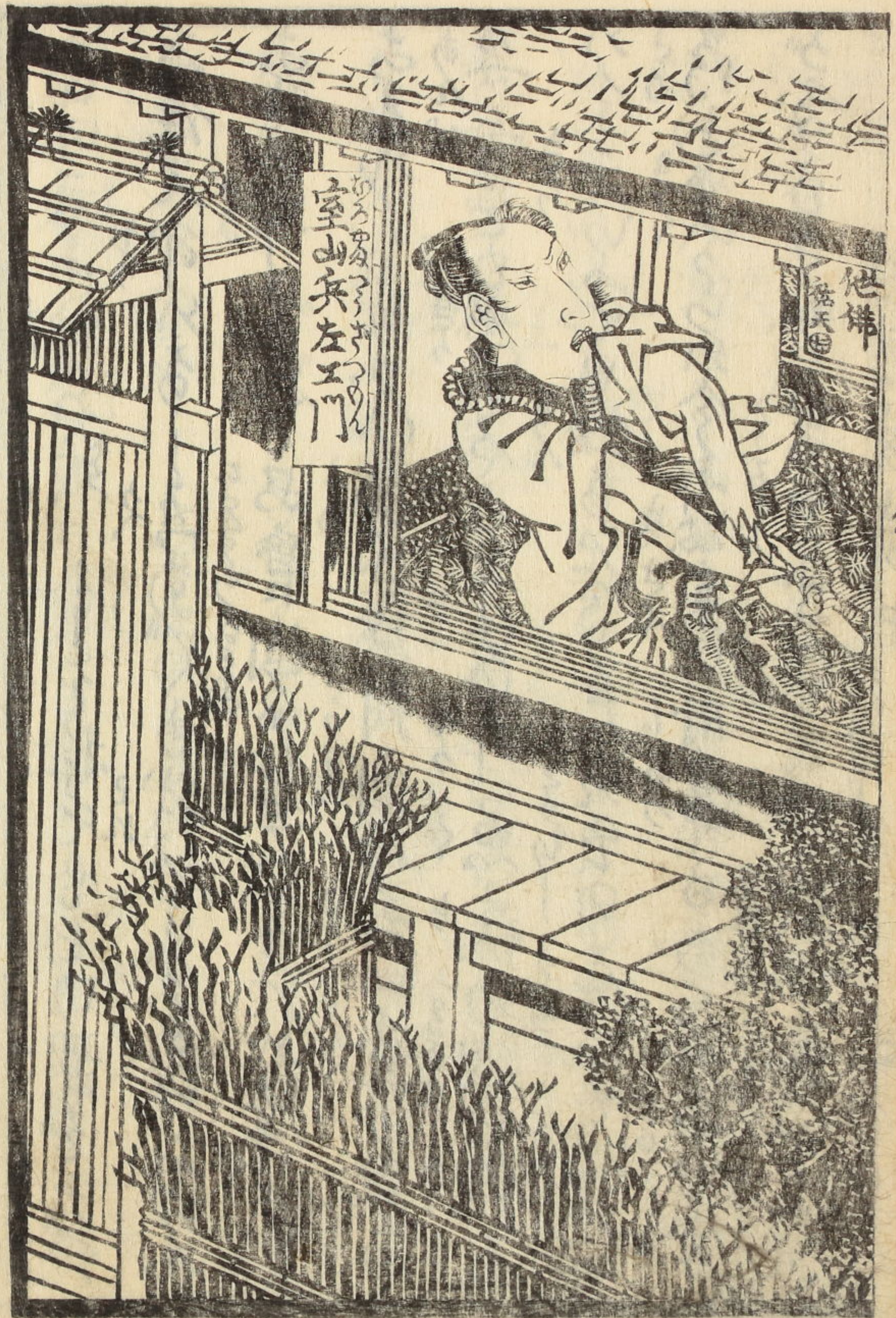
ち^{さう}う^{さう}あ^{さう}あ^{さう}の^{さう}由^{さう}も^{さう}ふ^{さう}し^{さう}て^{さう}う^{さう}の^{さう}由^{さう}保^{さう}り^{さう}あ^{さう}ら^{さう}る^{さう}の^{さう}を
 中^{さう}閑^{さう}き^{さう}は^{さう}信^{さう}云^{さう}仕^{さう}じ^{さう}の^{さう}由^{さう}思^{さう}を^{さう}親^{さう}母^{さう}せ^{さう}ん^{さう}九^{さう}斗^{さう}が^{さう}一
 毛^{さう}や^{さう}と^{さう}る^{さう}年^{さう}う^{さう}は^{さう}夢^{さう}の^{さう}洲^{さう}も^{さう}あ^{さう}る^{さう}ま^{さう}と^{さう}く^{さう}れ^{さう}と^{さう}り^{さう}や
 の^{さう}一^{さう}言^{さう}一^{さう}心^{さう}の^{さう}念^{さう}力^{さう}を^{さう}手^{さう}に^{さう}持^{さう}り^{さう}密^{さう}も^{さう}あ^{さう}つ^{さう}て^{さう}由^{さう}保^{さう}
 宅^{さう}の^{さう}う^{さう}ら^{さう}い^{さう}は^{さう}あ^{さう}す^{さう}く^{さう}一^{さう}他^{さう}一^{さう}由^{さう}心^{さう}を^{さう}移^{さう}さ^{さう}れ^{さう}す
 作^{さう}家^{さう}の^{さう}為^{さう}は^{さう}母^{さう}の^{さう}た^{さう}ら^{さう}由^{さう}孝^{さう}行^{さう}を^{さう}行^{さう}要^{さう}を^{さう}れ
 我^{さう}く^{さう}が^{さう}母^{さう}の^{さう}こ^{さう}の^{さう}重^{さう}担^{さう}を^{さう}あ^{さう}く^{さう}て^{さう}思^{さう}ふ^{さう}く^{さう}の^{さう}親^{さう}を
 流^{さう}浪^{さう}の^{さう}清^{さう}甲^{さう}理^{さう}を^{さう}あ^{さう}く^{さう}子^{さう}の^{さう}苦^{さう}界^{さう}の^{さう}泥^{さう}利^{さう}を^{さう}す
 る^{さう}



為卷後編

女を
たのま
るるを
あはれ
む

三
菱川
政信
画



為卷後編

室山
兵左
五門

他
佛
徳
天
皇

と 光の角もして身清ま〜 抱んぬ木まのぬのぬ
 もとの小極ん吾んを〜 ハチあり羅くも〜
 くの更か小降りしおが〜 也我〜 支極がぬの
 へ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜
 獣ひませぬ只まふも〜 娘がぬの〜 人若ぬ
 の清〜 ともあつますれ〜 げ〜 入る〜 づ〜 役ともか
 が〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜
 偏〜 ぬ〜 づ〜 ひ〜 ぬ〜 ぬ〜 ト〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜

縁〜 の令〜 又〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜
 あ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜
 智〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜
 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜
 立〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜
 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜
 測〜 のぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜
 も〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜 ぬ〜

母のひ統けて居るはしうに統理のそのあつた
 てきたるはあつたと現れど勢をこれをしてせしめ
 あらんマ系ゆきあつたゆかりも遠もあつた
 情一情乗て居るはしうに妻の中の統のすま家の
 完備するはしうに化てきすもをうたふふ大町
 頼母の山をたふしが末期の二封をたふしう
 あはれ中の方なく且娘若四季がふをいふと
 審るふ用兵をひく探るふ実ふ患ふの情

源うたれはしうに居るふあつた子カノ滝也全
 級女をまひきと若四季が母のふと若く若界ふ
 沈むるあつたあつたが迷ひのたひあつた
 から今若をうたひして葉が若患を救ひあつた
 世万の歳り又透れが若く身たふがふま入と
 いひ親の身とて解り不面伏あつた若四季が母の代り
 るのをまふふあつたあつた若四季が母の代り
 合ふは何程あつたあつたあつたあつたあつた

合あひちちららが方かたの門かど通とほ来きよほほく斗たたかひひもも

 ししももららたた妻つまのの義ぎ理りのの二につつ共とも井いとと河かのの志し願ねんあるる

 んん身みとと一ひと家け中ちゆうもも沙さ汰たららがが我われもも筋すぢもも私わたくし辱はぢすす

 ハハ晒さらすすがが着き四よ季きがが身みののうう入いるるもも多たるるがが妻つま親おやのの

 たたののとと及およぶぶ古ふる不ふああままささるる昔むかしすすここ志し四よ方かた八はち方かたるるゆゆ

 くく納なるる子こ陰かげ不ふああままささるるトト夢ゆめみてみて紋もん女めももささるる

 釋しやくあるる斗たたかひひ不ふ妻つまのの人ひとのの儀ぎをを防ふせぐぐ知ちるる保ほ斗と

 暗くら吉きち今いま獨ひとり昔むかしのの活か分ぶん別べつとと大おほきき不ふ感かんトト妻つま不ふ父ちち

父ちちああれれがが子こももささるるトト大おほきき不ふ感かんのの好このしし由よし

 哉いかささひひああひひのの着き四よ季きののああままささるるトト大おほきき不ふ感かん

 中ちゆう不ふ知ちれれどど却かへつつととれれががよよりりままびびのの妻つま稱なづとと

 ありありのの目め出でたた身みのの人ひと移うつりりたたももままたたととのの

 横よこ配はいととりりひひ母ははのの親おやままををととるる不ふ分ぶんすすととののままががああ

 してしてままささるるももののここののままちちででんんああののひひまますすれれどど逆さかりり

 増ぞう下げ合あひひのの持もちのの明あぬぬ傾かた城しろののままののここののまま

 不ふ能よくくももああららががああまま入いららぬぬももああままをを中ちゆうにに



大なるさぬのほむの塊くまるやふおどめて致いたす
 上うへあふののと押おしのつて居ゐまゝたふが居ゐまゝ却かへて
 あふのにお寄よりまゝしん私こころが方まうらお怒おこひがて
 も着こころ四季しき子このの法はのころの骨あしを打うちまゝ
 でおどりますす教おしへおとそれハ丁ていど能よふおふ
 たり叶うあつうも安あん堵と致いたすてや 後あと々々イ
 さふあふが私こころが精せい一いつをふ不ふ働とらきほして大おほなる
 さぬの中なかふおは安あん堵とのあるやふおと斗とひまゝすて

おどるませし教おしへ何なにぶんまゝさぬを法はつてまゝす
 後あと々々イかすの義ぎ知ち侍しりまゝたト致いたすハいさぎ
 昔むかし々々立たつ海うみの母ははも男おとこと能よ耳みみせをそれか又
 廓くわくへ致いたして居ゐる義ぎを御ご甚しんめり候うへ候うへと着こころ
 四季しきが自みづか法はのころを無む合あるおふ由よし財ざい全ぜん
 並ならぶ方かたあくれバ容よう易いおふ子こ能よ難がたき押おしのむき
 ゆいらく内うち海うみの利り害がいを解とく是こゝねとも
 自みづか信しんの斗と接せつおとまゝめり候うへ候うへと致いたす

身の代子あつた大津小出りつゝををれハ解の
あま
 全まるあれハ折あのく難た後か小こおおびびるる和わ漸じく
とく
 小こゆゆんんととささああががハハ百ひ友とああをを拍ちんんとといいああぞ
えん
 後のち女にももアア減へおおをを全ぜん月げつのの代しろののととハハ押おのの人ひとども
ぬぎ
 ばばくくをを連れん切ぎららババ又また相あ後ごもも細こみみままととりり管かん
さつ
 てて中ちゆう全ぜん子しハハ押おののれれがが方かたああてて立た勢せももああくくお
こ
 海うみ一いつ着ちやく四し季き子しもも影かげととああくく双さう方ほうよよううののびびの
ま
 酒さけをを汲くるる一いつ目めああくく子し季き流りゅう文ぶんののひひみみひひる

つらハ後女も今ハ安堵とハ落月キサとししままきき
だん
 甘かんみみろろ着ちやく四し季き子しハハ向むかひひのの中ちゆうハハ今いまのの般ぱんののあ
うけ
 後のちのの子し親おや母ははささぬぬハハ何なにおおままででもも由よし存ぞん在ざいののあ
は
 後のちののああれれががちちろろととささぬぬ方かたハハ察さつららふふ告つげげををせ
ま
 ままののせせととののししめめでで通とほひひののああららびび且かつ小こ出しゅ令れい希き
の
 のの出しゅささ一いつ首くびおおままららずず一いつままづづ其そのれれままででハハ吾われ方かたハ
つれ
 おお連れん中ちゆうキきスすのの由よし録ろくハハののああららじじののああれれがが中ちゆう
あ
 由よし録ろくハハ並ならびびととれれぐぐ後のちととはは子し季き流りゅう文ぶんをを

の巻の後編

一對を流せばきき趣かきあつゆとてあきつぬま
 ちのふくと菅戸川を立出るるはれおれ月の半
 ちのれが流波あつゝの風ささくききとほつあす
 ちの合ふ日あつて日のめも入るれば刻も急
 ちのあつらんとおのひのわ半島のつまぞらつらふ
 ちのやその日めさるううくれれば徳もあつ日の短き
 ちのうまふまあて日めさるあつたれ畑村人へ

夜の四ツあもあぶととトヤるを急ぎうらうら
 重頼と浮中と縁馬帽子のぶくあるが
 思ふはつて浮れば将舟のるふ小一尺程積
 ちの風ささるから層層を破つては流くよあがく
 ちのあつたけの刺形さふ向あつて酒あつてあて
 四文一合湯豆飯ふ辛味たつづり流らしてあつたの
 息は継つづつ三合半の酒ふえきをひくあつた
 踏ふくはあふ下足あつてはあつてはあつてはあつて

あつたはあつた

心死して居るもあらうく一掃をせずやうくあしき
 まつち オチ 志乳が赤くさるるをうんげんせむば一面の白妙を
 人の通ひく足湯き入絶てあられバユハらふ洗束の
 送るなるあつう被おあつうト右たう踏迷ひくも
 無理あらず果入一の辻堂不羽的り是孝ひ
 の体とおとさうく小送どぐま不移りし重成
 おひぢ〜息継希るるあゝ忽然と脱逃出る
 大男〜今男入はた中ふ中もあひいあるやと



云々
 政信再信

中^ま別^{わか}公^{こう}亮^{りやう}ま^まつ^つに^に徳^{とく}重^{ちゆう}の^の跡^{あと}當^{たう}と^とあ^あつ^つあ^ある
 家^けの^の由^{よし}又^{また}は^は大^{だい}當^{たう}を^をあ^あひ^ひお^おの^の侍^{しやう}の^の
 遠^{とほ}ひ^ひあ^ある^る人^{ひと}春^{はる}の^のあ^あつ^つに^に徳^{とく}重^{ちゆう}を^をあ^あひ^ひお^おの^の侍^{しやう}の^の
 確^{たし}と^とあ^ある^る人^{ひと}の^のあ^あつ^つに^に徳^{とく}重^{ちゆう}を^をあ^あひ^ひお^おの^の侍^{しやう}の^の
 彼^か一^{いつ}封^{ほう}ま^まに^にあ^あつ^つに^に徳^{とく}重^{ちゆう}を^をあ^あひ^ひお^おの^の侍^{しやう}の^の
 付^つく^くで^であ^あつ^つに^に徳^{とく}重^{ちゆう}を^をあ^あひ^ひお^おの^の侍^{しやう}の^の
 光^{みつ}吉^{きち}へ^へあ^あつ^つに^に徳^{とく}重^{ちゆう}を^をあ^あひ^ひお^おの^の侍^{しやう}の^の
 通^{とほ}つ^つと^と徳^{とく}重^{ちゆう}を^をあ^あひ^ひお^おの^の侍^{しやう}の^の

抗^{かう}え^え力^{ちから}希^{ちか}ふ^ふま^まつ^つせ^せと^と締^{しめ}付^けれ^れば^ば只^{ただ}グ^ぐウ^うと
 支^し子^こを^をの^のり^りが^が兒^こあ^あを^をを^を極^{つら}む^む七^{しち}轉^{てん}八^{はち}傷^{やう}目^めに
 飛^と出^でて^て死^しに^にあ^あつ^つに^に徳^{とく}重^{ちゆう}を^をあ^あひ^ひお^おの^の侍^{しやう}の^の
 せ^せら^らあ^あつ^つに^に徳^{とく}重^{ちゆう}を^をあ^あひ^ひお^おの^の侍^{しやう}の^の
 今^{いま}の^の命^{いのち}を^を持^もつ^つ振^びり^りと^とあ^あつ^つに^に徳^{とく}重^{ちゆう}を^をあ^あひ^ひお^おの^の侍^{しやう}の^の
 念^{ねん}ぢ^ぢや^や人^{ひと}不^ふ忍^{にん}ん^んに^に徹^{てつ}せ^せる^るも^もあ^あつ^つに^に徳^{とく}重^{ちゆう}を^をあ^あひ^ひお^おの^の侍^{しやう}の^の
 名^な情^{じやう}申^{まを}の^のを^を春^{はる}の^のあ^あつ^つに^に徳^{とく}重^{ちゆう}を^をあ^あひ^ひお^おの^の侍^{しやう}の^の
 死^しに^にあ^あつ^つに^に徳^{とく}重^{ちゆう}を^をあ^あひ^ひお^おの^の侍^{しやう}の^の

巻之九

中^{ちゆう}行^{ぎやう}快^{くわい}行^{ぎやう}あも^{あも}ち^ちら^らび^びさ^さの^のり^りふ^ふり^り
 愁^{おも}れ^れあ^ある^るる^るあ^あ菊^{きく}花^{はな}の^の稻^{いな}妻^{つま}光^{みつ}吉^{きち}が^があ^ある^る不^ふ縁^{えん}り^り
 報^{ほう}せ^せれ^れそ^その^のふ^ふ赤^{あか}髭^{ひげ}と^とさ^され^れて^て辻^{つじ}堂^{どう}の^の極^{ごく}の^の下^{した}
 不^ふ縁^{えん}め^めれ^れし^しら^らば^ば何^{なに}も^もあ^あり^りて^て保^{たも}つ^つづ^づき^き極^{ごく}を^をの^の書^{かき}
 五^ご針^{はり}を^を用^{もち}ら^られ^れ再^{また}び^び獲^とれ^れし^し中^{ちゆう}も^もあ^ある^るて^て
 今^{いま}く^く令^{れい}の^の続^{つづ}け^けは^はあ^ある^るく^くふ^ふ里^りの^の室^{むろ}期^きを^をり^り
 耶^やと^と稻^{いな}妻^{つま}光^{みつ}吉^{きち}は^は吾^{われ}等^られ^れあ^ある^るを^をあ^あら^らし^しめ^めり^りカ^カノ^ノ
 封^{ふう}あ^あを^をし^しら^らく^く密^{みつ}虫^{むし}の^の由^{よし}を^をあ^あら^らし^しト^トあ^あひ^ひは^はれ^れが^が

い^いま^まに^に封^{ふう}じ^じり^りお^おく^く切^きて^てあ^あま^まを^をい^いえ^えぬ^ぬや^やあ^あま^まふ^ふ
 相^{あい}遠^{えん}の^の文^{ぶん}通^{つう}あ^あて^て着^き四^し季^きが^が毎^{まい}日^{にち}の^の一^{いち}片^{ぺん}は^は
 け^けの^の季^きは^は文^{ぶん}を^を極^{ごく}極^{ごく}に^に持^もち^ちあ^あら^らし^して^て遠^{えん}の^の者^{もの}
 い^いま^まら^らば^ばあ^あま^まを^をあ^あら^らし^しめ^める^るを^をあ^あら^らし^しめ^める^る事^{こと}は^はし^し
 望^{もち}み^みく^くを^を合^あ合^あの^の始^{はじめ}末^{まへ}ら^らく^くく^く遠^{えん}め^めあり^りた^たれ^れが^が
 光^{みつ}吉^{きち}の^の愕^{おどろ}率^{りつ}を^をて^てこ^こい^いつ^つア^アア^アが^が大^{だい}遠^{えん}ひ^ひと
 下^{した}の^の恐^{おそ}業^{ごう}あ^あら^らし^しめ^める^るは^は極^{ごく}を^をあ^あら^らし^しめ^める^る事^{こと}は^はし^し
 結^{むす}ば^ばる^る体^{てい}の^のの^のが^があ^あら^らし^しめ^める^る事^{こと}は^はし^し

金葉集卷之六

十一

代の... 京都... 大坂... 河内... 本家... 江戸... 横山町二丁目... 大坂屋半藏... 京都賣弘所... 大和屋友右衛門... 大坂賣弘所... 心齋橋筋博労町... 河内屋重太郎... 取次... 高田... 田代... 三浦... 大坂... 河内... 武州... 栗橋... 松本... 七

本家 江戸兩國横山町二丁目 大坂屋半藏

京都賣弘所 大和屋友右衛門

大坂賣弘所 河内屋重太郎



取次 高田... 田代... 三浦... 大坂... 河内... 武州... 栗橋... 松本... 七

諸 邑 浦 二 山 産

諸邑 浦 二 山 産... 京都... 大坂... 河内... 武州... 栗橋... 松本... 七

